

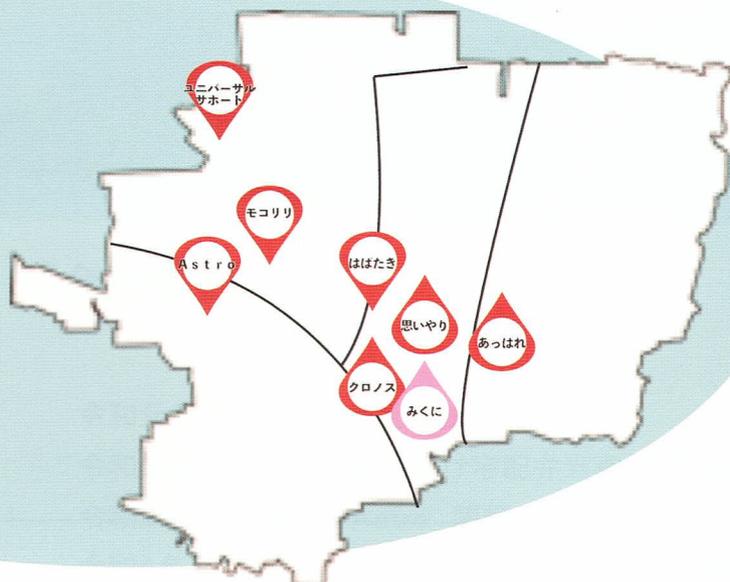
就労継続支援A型による 就労継続支援

ハA会

Working Lab

Vol.3

八A会



【沿革】・・・2015年8月発足

当初は就労A型単独事業所の有志の集まりだった

開催日 毎月第2木曜日 17:30～19:00

開催場所 はばたき作業所

【目的】

八尾市近隣の障害福祉サービス就労継続支援A型事業を行う事業所が情報交換・研修等を行い、

ともに地域の障がい者福祉・障がい者就労に貢献すること

【活動】

- ・定例会の開催(月1回程度)
- ・合同での研修会等の開催
- ・生産活動収入向上についての協力

【会員】

- ・目的に賛同した就労継続支援A型事業所
- ・目的に賛同した就A以外の福祉事業所
- ・目的に賛同した個人

事業所名	住所	電話番号
Astro	東太子2-6-4 藤岡ビル1階	072-943-4790
あっぱれ	教興寺3丁目86	072-983-6823
思いやり就労支援センター	刑部1丁目179番地	072-920-7970
クロノス	天王寺屋1-50コンパクトオフィスB号	072-911-0024
はばたき作業所	八尾木北1-39	072-990-5855
モコリリ	陽光園2丁目6-30	072-975-6464
ユニバーサルサポート	佐堂町三丁目2番7号ジャングビル2階	072-923-6336
就労継続支援B型 みくに	刑部3-51-1	072-927-0001

Working Lab vol.3

相談支援専門員との連携

株式会社 A to C
Astro

サービス管理責任者
串崎 宏司

思いがけない相談から新しい生活へ

株式会社 睡蓮
あっぱれ

サービス管理責任者
大月 法子

就労継続支援B型みくへの取り組みについて～
就労継続支援につながったAさん

株式会社 ブレッシング
就労継続支援B型 みくに

サービス管理責任者
山下 すみえ

8050問題の解決とその後
～統合失調症のDさんの場合

株式会社 想立
はばたき作業所

サービス管理責任者
高岡 みえ

就労継続支援を経て、一般就労、職場定着の実例

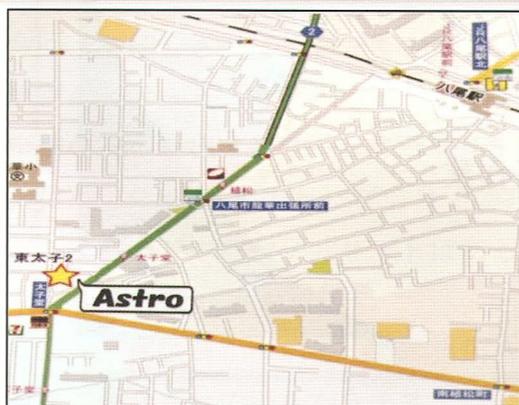
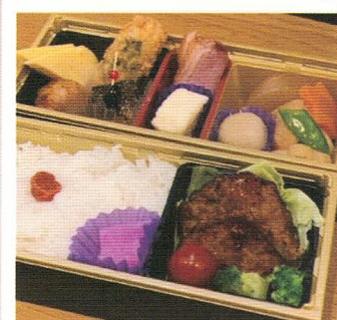
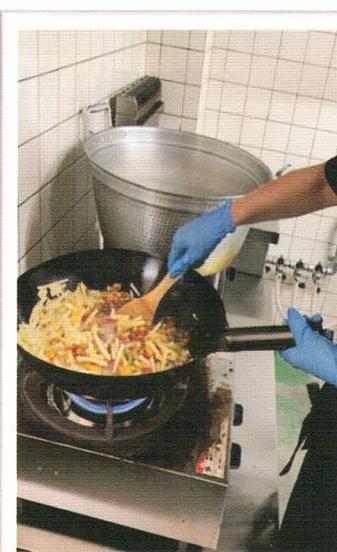
ご同会社 思いやり
思いやり就労支援センター

代表社員
松岡 博之

就労継続支援 A 型事業所 Astro

【会社概要】

会社名	株式会社AtoC	令和元年 11月	会社設立
所在地	〒581-0062	令和2年 2月	企業向け宅配弁当事業 開始
	大阪府八尾市東太子2-6-4	令和2年 10月	Astro 開設
	藤岡ビル1階	令和4年 6月	高齢者向け宅配弁当事業 開始
設立	令和元年 11月 28日		



JR大和路線『八尾駅』から徒歩11分
近鉄バス『太子堂』バス停から徒歩1分

運営会社

株式会社 A t o C (エートゥーシー)

令和元年11月に設立し、企業向け宅配弁当のお店として令和2年2月に営業開始。主に八尾市・東大阪市の企業様向けにお昼のお弁当を配達している。

令和2年10月より指定を受け「就労支援A型事業所 Astro」
として障がい福祉サービスを開始。

令和4年6月より、高齢者向けの宅配弁当事業をスタート。
八尾市内のご自宅にお昼・夜と配達をしている。

令和5年11月現在、お弁当の配達個数は1日平均で約700個。



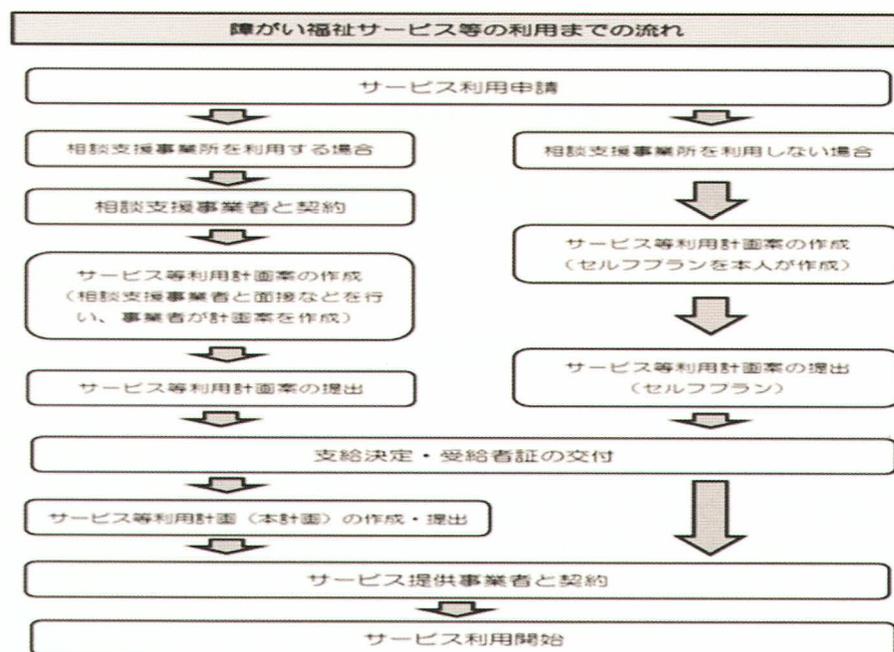
就労継続支援A型事業所 A s t r o (アストロ)

- 開設年月日 令和2年10月1日
- 事業所所在地 大阪府八尾市東太子2-6-4藤岡ビル1階
- 利用定員 20名
- 管理者 間賀 健之
- サービス管理責任者 串崎 宏司
- 主な作業内容 お弁当の調理補助、盛り付け、カップ詰め
事業所内軽作業、施設外軽作業
在宅ワーク



「相談支援専門員との連携」

A s t r o
サービス管理責任者 串崎 宏司



今回、ご紹介させていただくのは、【相談支援専門員との連携】についてです。障害福祉サービスを利用しようとする際、まず市役所での申請が必要となります。申請の際に提出するサービス等利用計画案ですが、大きく分けてふたつあり、相談支援従事者(相談員)が作成するものと、ご自身・ご家族で作成するセルフプランがあります。どちらもメリット・デメリットはあるかと思えます。そしてそれらを選ぶのは、ご利用者ご自身であり、ご家族の皆様です。今回は、相談員がついていて、当所A s t r oとの連携が取れているご利用者様のケースをいくつかご紹介させていただきます。

【ケース①】

- 対象者 Aさん 男性 50代
- 障害種別 精神2級（統合失調症・適応障害）
- 事業所入所 令和3年8月～
- 相談員 入所当初より相談員あり
- 相談員さんとの連携
相談員さんが作成しているサービス等利用計画をもとに個別支援計画を作成する事となる。当所を利用される前より関わりを持たれているため、信頼関係が築けており、本人の希望に沿った支援内容を提供することが可能となった。また、仕事以外の悩みや不安な事を本人が上手く伝えられなくても、本人・事業所・相談員が連携を取る事で、本人の意思のもとサービスの提供が継続できるようになっている。

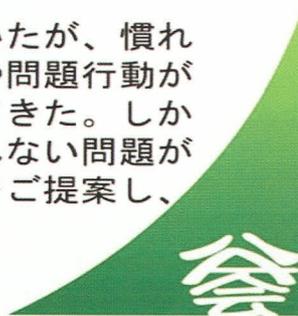
【ケース②】

- 対象者 Bさん 男性 30代
- 障害種別 精神2級（広汎性発達障害・聴覚過敏）
- 事業所入所 令和5年6月～
- 相談員 入所当初より相談員あり
- 相談員さんとの連携
相談員さんからの紹介で入所となる。本人の状態や希望から、在宅ワークにてPC業務となったが、通所にて面談等も行えており、信頼関係も築けるようになった。その為、本人と相談し、完全在宅→通所しての作業日を設ける事に成功。在宅での様子など、相談員さんと連携が取れているからこそ、本人にとってのプラスの提案が可能となっている。

①・②ともに、Astroを利用する前から相談員さんがいたケースとなります。事前にいる場合、相談員さんからご紹介いただく事も少なくありません。その為、相談員さんから事前に当所の事を聞いている事もあり、見学や体験後にお互いの「こんなはずじゃなかった・・・」を防ぐ事も出来ます。また、必要に応じてこちらから相談員さんと連携を取り、ご利用者様ご本人にとってより良いサービスを提供していくことが可能となります。

【ケース③】

- 対象者 Cさん 男性 30代
- 障害種別 療育手帳（知的障害BⅡ）
- 事業所入所 令和3年5月～
- 相談員 入所当初は相談員なし。セルフプラン
- 相談員さんとの連携
入所当初は、問題なく通勤・作業は出来ていたが、慣れてきたころから現在までに数回、無断欠勤や問題行動があり、都度ご家族も交えて話し合いを行ってきた。しかし、生活面の改善等、当所だけでは抱えきれない問題が発生したため、今後の事を考え相談員さんをご提案し、利用することとなった。



【ケース④】

- 対象者 Dさん 女性 50代
- 障害種別 精神2級（うつ病）
- 事業所入所 令和3年6月～
- 相談員 入所当初は相談員なし。セルフプラン
- 相談員さんとの連携
入所後より、生活面や金銭面等で不安な事があり、当所からの紹介で相談員さんを付ける事となる。就Aのサービス利用しか考えてなかったご利用者様に対して、様々なサービスの提案をしてくれる事で、通院時の不安や家事等での不安を少しでも軽減する事が出来た。



続いて、③・④は、入職後に相談員さんを付けたケースとなっております。

どちらのケースも入所当初は、仕事が出来ればと就労の事だけを考えて、福祉サービスを利用されました。しかし、その後に生活面や金銭面での問題が発生し、就Aとしての支援だけでは難しくなりました。その為、ご本人と相談し相談員さんをつけることになりました。

③のケースでは、ご家族様も交えた担当者会議を行い、相談員さんとともに今後の方向性やご本人の目標を再度確認することが出来ました。

④のケースでは、不安であった通院時の同行援助等、就労以外でのサービスを利用することができるようになりました。

【相談員さんの役割】



【担当者会議】



相談員さんは、障害福祉サービスを利用する（利用している）ご利用者様・ご家族様の相談を受け、様々な福祉サービスから必要なサービスを提案してくれます。就業先や市役所などの関係機関に、正確にご自身の意思を伝えていくことが可能となり、またご自身では大変な手続も、サポートしてもらうことが可能となります。また、相談員さんがいてくれることで、担当者会議も活発に行われ、事業所間連携、顔が見える関係の中で、ご利用者様にとってより良いサービスの提供が実現できると考えております。

今後も、ご利用者様への支援力向上と目標達成に向けて、同じゴールを目指し関係機関との連携を図って行きたいと思っております。

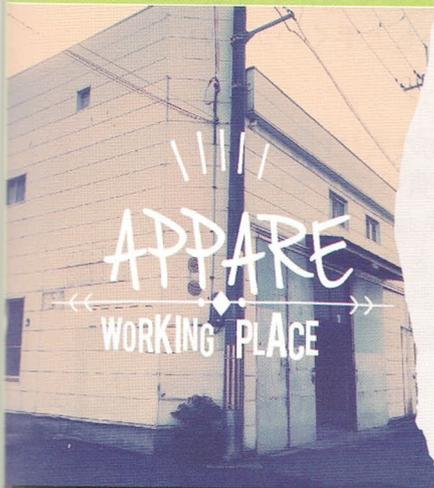


食品加工
木工作业
ネット販売
BIO TOPE
(八尾にんにく栽培)
パッケージ製作

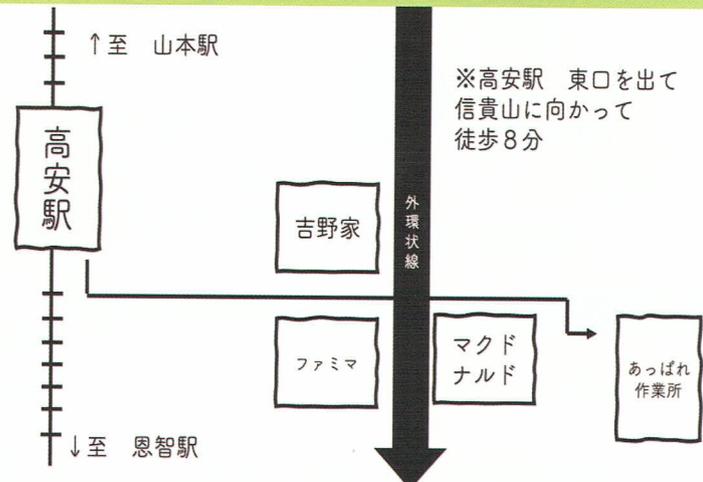


就労継続支援A型

あっぱれ 作業所



- 10:00 開所
- 10:30 ①作業開始
10分休憩
- 11:30 ②作業開始
- 12:30 お昼休憩(1H)
- 13:30 ③作業開始
10分休憩
- 14:30 ④作業開始
- 15:30 作業終了
- 18:00 閉所



漫画をたくさん揃えています
ヨガハンモックでぶら下がり過ごしたり
自由に休憩できます

「思いがけない相談から新しい生活へ」

令和5年11月19日
八A会

あっぱれ 大月法子

彼女から聞く話の中で一番心に残っているのは
「やっと人間らしくなりました」
という言葉でした。

幼いながらに他者と関わる中で、
自分の家庭は普通の家庭ではないのだと気が付きはじめる。
年齢を重ねるにしたがって、いじめに遭っていたこと、
家族から虐待を受けていたことを理解していく。

自覚のない自傷行為を繰り返しながら
息が詰まるような生活の中から抜け出そうと
20代で実家から夜逃げのような形で家族と縁を切り
地元から離れた土地で生活を始められました。

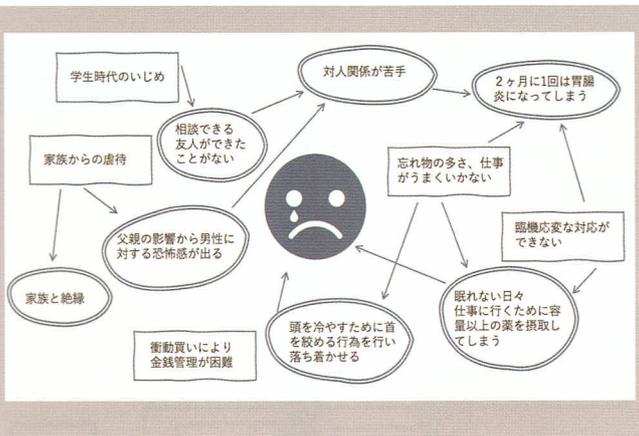
「やっと人間らしくなりました…」



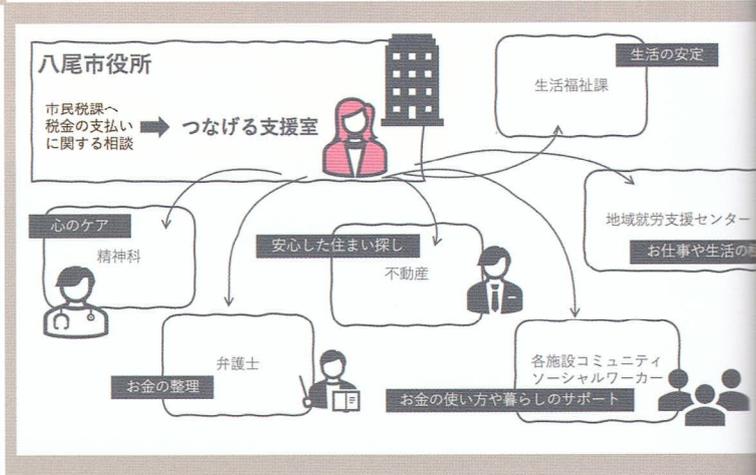
30代 女性
発達障害
(AD/HD)
精神保健福祉手帳
家族は猫ちゃん

当作業所に来られる時まで
自分が発達障害と診断されたことは無く
仕事をするにしても、生活をするにしても
人と関わるにしても、何もかも上手くいかない。

心のよりどころにした大切な人には裏切られ
気が付けば借金を背負ってしまい
幼いころから言われ続けてしまったことが原因なのか
いつも「…自分が悪い…」と言いつつ聞きながら
八尾市に辿りつかれました。



仕事が継続できず、借金もあり、
税金の支払いが困難になっている為
どのように支払っていけばよいのかを
聞くために市役所を訪れ
市民税課に相談をしたことから
彼女の支援が展開されます。

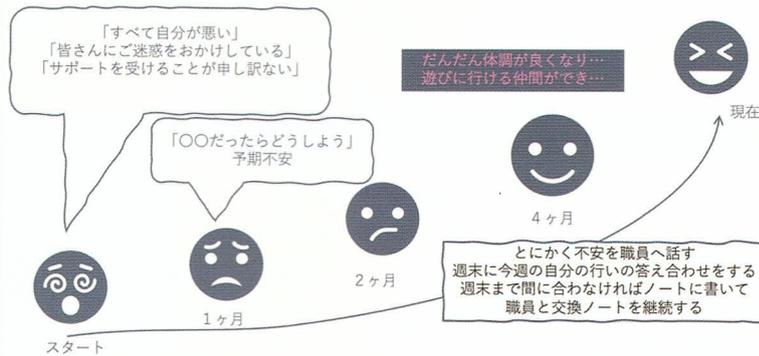


八尾市役所では市民税の支払いが可能か、不可能かを判断するだけでなく
なぜ支払えないのか、どのような理由があるのかしっかりと彼女の背景をアセスメントいただけ
「つなげる支援室」へ紹介していただきました。

生活の困窮度合い、健康状態、病院の紹介、食事の管理、
自宅に必要なものがどれだけあって、何が不足しているのか、
生活されている環境は適しているのか、あらゆる角度から評価し必要な機関につないで下さったそうです。
彼女から伺ったその支援の中には私も聞いたことが無いような福祉サービスが沢山ありました。

そして、福祉サービス以外でも不動産や弁護士の先生なども紹介いただき、
最終的に仕事の継続が困難な状況から就労継続支援A型の当作業所が望ましいとの判断となり
私たちの作業所へ至ります。

あっぱれ（就労継続支援A型）での彼女の歩み



彼女の診断名は発達障害でAD/HDです。
知的障害が無いことから
一見障害が無いように思われますが
相手の心が読みにくい、
思ったことを全て口にしてしまう、
衝動的に行動をして失敗を繰り返してしまう
等の特性をお持ちです。

彼女の場合はさらに環境要因からくる
心の傷が大変深く感じられました。

出来る事はたくさんあるのに常に自信が無い
理解の無い社会で揉まれすぎたせいか（私の独断で表現しております）
彼女が得た防衛反応は、自宅で自分の悪気口を声に出し言い続けるという行動です。
この行為で心を落ち着かせます。

作業所に通所した当初は精神的な緊張から腹痛を繰り返し、作業中何度もトイレへ行ったり
ひどい時は作業の途中から立てなくなり休憩室で寝込んでしまったりしていました。

過去の働き方は、腹痛があっても仕事を休んではいけない、
「自分を甘やかしてはいけない」と自分に言い聞かせ、限界まで身体的な症状を我慢して仕事に行かれます。

期不安も症状が重く

「○○だったらどうしよう、○○になってしまわないか不安」
など根拠のない不安が毎日頭の中をめぐっておられ、その精神的不安が身体症状へと変わり
最終的に身体が限界を迎え退職に至ることがほとんどだったそうです。

仕事に対して真剣に向き合っていると誠意が伝わるように転職のたびに新しい仕事着を調達し
お金が無いのに出費を重ねてしまう事も大きな課題でした。

作業所ではとにかく彼女の話聞きだし、どのような事が不安なのか時間の許す限りお話しして頂きました。

内容は「そんなこと気にしているの?!」と拍子抜けしてしまうような日常の不安なことから、
「そんな大変なことがあったの?!」と驚愕してしまうような過去の話までたくさんしていただきました。

そして、仕事との向き合い方

「しんどくても頑張る」と、「しんどいから休む」との
境目をどのようにして決めるかなど、
体を休ませることで心がどのように変わるか、
心が安心することで体にどのような影響があるのかなど、
ひとつずつお話ししてきましたがいつも私の話を真剣に聞いてくださっていました。

私が言う細かなことをいつも真剣に聞ける理由として彼女には大きな目標があります。
それは自分をここまでサポートして今の生活まで辿り着かせていただいた
八尾市の支援員さん方に恩返しをすることだそうです。
買い物に同行していただき、何をどの量で買うべきか、どのぐらいの予算で生活すべきか、
一つ一つ手に取るように丁寧に教えてくださったこと、
金銭管理を愛情深く一緒に向き合ってくださいました事、
今までにこんなに人に優しくしてもらったことが無いと話されます。

そして、

「自分もいつか人を笑顔にできるような人間になりたい」
と教えていただきました。

新しい生活

これからは…

安心して暮らせる居心地のよい住居

休日も一緒に楽しく過ごせる
仲間がいる職場

優しくアドバイスをくれる
金銭管理サポート

正しい治療とお薬の管理
ができる医療環境



今できた友人とこれからも
よい関係性を継続させたい

自分も人を笑顔にで
きる人間になりたい

長時間労働に耐えられる
体力をつけたい

ありのままの自分を受け止め
られるようになりたい

当初「生きる気力が無く、飼っている猫の為に生かされている。」と辛い事を我慢して心を無にしてロボットのような絞り出された生活目標でしたが、就Aに辿り着くまでに支援していただいた内容に対する感謝だけではなく、真心がこもった支援に触れ、自分の心が解放されていくのを実感し、生きる希望さえも持つことが出来、血の通った目標が立てられるようになりました。

現在は、作業所で初めてプライベートでも遊びたいと思える人と出会い、同僚と初めて不安を抱かずに食事に行くことができ、毎日彼女の笑い声が作業場に広がっています。先日は生まれて初めて学校以外で仲間とプールに行きましたと嬉しそうにご報告してくださいました。今でも急に謝罪をして来られたり、自分の発言に失礼が無かったのかと確認をしてこられたりされますが、それもまた、彼女らしさとなり、ありのままを受け入れてくれる仲間の中で、これでいいんだと感じて楽しみながら働いていただきたいと願っております。

私自身、彼女を通して八尾市の「つながる支援室」はじめ、一人の人にかかるサポート体制のすばらしさを実感し、一緒に支援させていただいていることを誇りに感じました。彼女を私たちの支援までつなげてくださり本当に感謝申し上げます。バトンをしっかりと受け取り、彼女のステップに合わせて次の支援や環境へとつなげていけるよう大切にサポートしていきます。この場をお借りして感謝と決意の言葉へとかえさせていただきます。

きっと世の中中には彼女のようにどこに相談すべきかわからず、一人で抱えたり、整っていない環境で苦しんでいたりと、そんな方が多くいらっしゃるのではないかと思います。つなごうや八尾福祉フェアや、色々なイベントを通して少しでも多くの方に安心して相談していただける八尾市の環境を知っていただきたいです。

あなたの

好きなこと

できること

送迎あり

昼食 提供あり
(無料)

見学/体験
受付中

きょうみの
あること

Bless
you
COFFEE
Store Roasted coffee

とくいなこと

就 労 継 続 支 援 B 型 み く に

私たちといっしょに見つけましょう。応援します！

利用者さん募集中

10:00 朝礼・作業スタート

12:00 昼食・休憩

13:00 午後の作業開始

15:00 片づけ・終礼
おつかれさま！



お気軽にお問合せください。

〒581-0015 八尾市刑部3-51-1

TEL/ FAX : 072-927-0001

MAIL : blesscoffee28@gmail.com

就労継続支援B型みくへの取り組みについて

就労継続支援B型みくに

- 1 就労継続支援B型 みくには
- 2 支援の目標
- 3 大切にしていること
- 4 相談・見学（体験）及び在籍数について
- 5 一日の流れ
- 6 作業内容
- 7 事例について
- 8 まとめと今後の課題

1 就労継続支援B型 みくには

八尾市の刑部に令和5年2月に新規オープン

主に知的障害と精神障害の方を対象にした作業所

主にコーヒー豆の加工を中心に作業を行っている。



2 支援の目標

障害がある方が、個々の能力を最大限に発揮し、地域社会の中で豊かに生きていくことができるように支援する

- やりたいこと
- 得意なこと
- 興味関心があること
- できること

一緒に見つけよう！やってみよう！

3 大切にしていること

- 利用者さんの状態を把握する。
- 利用者さん自身の気持ちを大切にす。
- 利用者さんが安心できる居場所になるようにする
- 利用者さんたちの状況を配慮して作業を行う。

4 相談・見学（体験）及び在籍数について

（令和5年2月～9月現在）

随時、相談や見学、体験に応じている

9月現在14名の方が在籍

そのうち

相談員がついている方は、11名



1 就労継続支援B型みくに紹介

(1) みくについて

就労継続支援B型みくには令和5年2月、八尾市刑部に新規オープンした事業所（作業所）で、知的障害と精神障害の方を主たる対象として、利用者さんが自立した社会生活が送れるように就労の機会を提供するとともに、就労に向けた訓練や支援を行うことを目指している。コーヒーの加工を中心に利用者さんの能力や心身の状態を考ながら、軽作業などの作業も取り入れている。

(2) 支援の目標

“障害がある方が、その能力を最大限に発揮し、地域社会で豊かに生きていけるように支援する。”ということを大きな目標として取り組んでいる。

- やりたい事
- 得意な事
- 興味、関心がある事
- できる事などこれらを一緒に見つけて、一緒にやってみて、もっといろいろなことにもチャレンジしてみよう！そんな支援のあり方を目指している。

(3) 大切にしている事

- 利用者さんの状態を把握する。
- 利用者さん自身の気持ちを大切にす。
- 利用者さんが安心できる居場所になるようにする。
- 利用者さんたちの状況を配慮して作業を行う。

(4) 相談・見学及び在籍数について

開所当時から随時、相談や見学に応じている。9月現在14名の方が在籍されている。

その中で相談員がついている方は、11名いる。

5 一日の流れ

10:00 朝礼・作業開始
12:00 昼食・休憩
13:00 作業再開
15:00 片づけ・終礼



6 作業内容について

- ・コーヒー豆
ドリップパックの加工
- ・シール貼り
- ・袋詰め
- ・ラッピング作業
- ・パッチワーク
- ・内職などの軽作業



コースター
(パッチワーク作業)



ラッピング作業
(プレゼント包装)

おやつ作り



7 事例について

<就労継続支援につながったAさん>
30代女性、知的障害、就労の経験あり

幼い頃から、周りと協調できなかつたり、行動が一人だけ遅かつたりなどで辛い時が多かつた。しかし、なかなか福祉や支援サービスにつながる機会がなかつた。

↓
相談員とつながって



(5) 1日の流れ

ほとんどの利用者さんが送迎サービスを利用して来られています。10時ごろに作業所に着き、午前の作業が始まり、途中5～10分くらいの休憩を入れて12時に昼の休憩になる。13時から午後の作業を行います。途中で休憩を入れて、15時には終了。

(6) 作業内容について

○コーヒーの加工

コーヒー生豆の選別・焙煎・焼かれた豆を粉にする・袋詰めをするなどの作業を行っている。

豆の選別が得意な方、袋詰めならできる方など個々の能力ややりたいことにより、できることを中心に取り組んでいる。

○コースター作り

パッチワークが趣味、手伝って貰えればやってみたい。という利用者さんの意見を聞き、パッチワークでコースターを作る作業を行うことになった。やってみたいという利用者さんも増えて、今ではコーヒーを購入してもらった時に手作りコースターをプレゼントとして渡している。

○おやつ作り

おやつ作りが好きだという利用者さんの意見を聞き、1～2週間に1回くらいおやつ作りをして、できたおやつをコーヒーと一緒にみんなで食べる時間も作っている。その他軽作業も行っています。

(7) 事例について

<就労継続支援につながったAさん>

Aさん30代女性 知的障害
就労の経験あり

幼い頃から、周りのみんなと協調できなかつたり、自分だけ行動が遅かつたり、また学習の場面では理解できないことがあつたりなど困り事を抱えていた。

しかし、Aさんの行動や障害の特性などなかなか理解してもらえず辛かつた。

『みくに』を見学・相談に来られるが・・・
※どんな作業ができるのか？
※何を目標にしたらいいのか？
(どう接したらいいのか・・・)

—相談員さんからの情報が参考に—

- ・周りの人たちの障がい理解について
- ・現在の生活状況について
- ・Aさんの思いや希望など
- ・他の場所(病院など)での様子について



- ・Aさんへの接し方について、
- ・Aさんのできること、苦手なことについてなど

↓
“職員みんなが理解して共有できた”

(例) アナログの時計はわからない
→デジタル時計の準備
トイレの心配→女子の職員に周知
ルールや決まり事を伝える時
→簡潔にわかりやすいことばで

- ・通所する日を自分でカレンダーに書いてくる。
- ・わからないことは、職員に聞くことができています。
- ・他の利用者から学ぶこともある。
- ・新しい作業にも自分から「やってみたい」と要求できる作業が増えてきている。

・今後も、Aさんのペースで作業所に通い、経験を積んで働くことに自信が持てるようになってほしい。



8 まとめと今後の課題

- ・相談員がついている方とついていない方がいる。
- ・利用者の多くは、それぞれ困り事を抱えている。
相談員とともに協力して、対応できるように・・・
- ・必要な情報を共有できるような体制が必要

※みんなが安心して生活ができるように、関係機関と
がら取り組んでいきたい。

最近になって、計画相談に入ってもらうことができ、居宅のサービスや就労のサービスを受ける機会ができた。初めは、一般就労やA型作業所での就労を望んでいたが、相談員のアドバイスもあってB型での就労から始めてはどうかということになった。

初めて『みくに』に見学に来た時は、緊張もあり、落ち着かない様子で、つかみどころがない状態だった。職員同士では「Aさんに何ができるのか？むずかしいなあ」と悩んでいた。

その後、相談員から、Aさんの生育歴や周りの人たちの考えなど教えてもらう。また、Aさんには、はっきり話しかけるほうがいい。できることはたくさんあるが場面によってはできなく装うこともある。病院などではきはき話せている。などの情報をもらう。これらの情報を職員間で共有することで、Aさんの利用が始まった時から気季節な対応をすることができた。

(8) まとめと今後の課題

作業所には相談員がついている方とついていない方がいるが、みんなそれぞれ困り事を抱えている。

相談員とともに協力することでスムーズな対応ができることが多い。今後も必要な情報を共有しながら丁寧に対応していきたい。

※これからも、みんなが安心して生活ができるように、関係機関と協力しながら取り組んでいきたい。

八尾で一番 自分らしく働ける 就労A型事業所に!
～地域とつながり、人とつながり、自立の種を蒔く～

【会社概要】

会社名 株式会社想立
所在地 八尾市八尾市八尾木北1-39
2014年7月 会社設立
2014年9月 はばたき作業所 開所
2017年6月 事業所移転
2017年7月 代表取締役交代
2020年11月 計画相談きうい 開所
2021年3月 放課後等デイサービスかかぼ 開所



玄米の販売しています
LINEで簡単問い合わせ

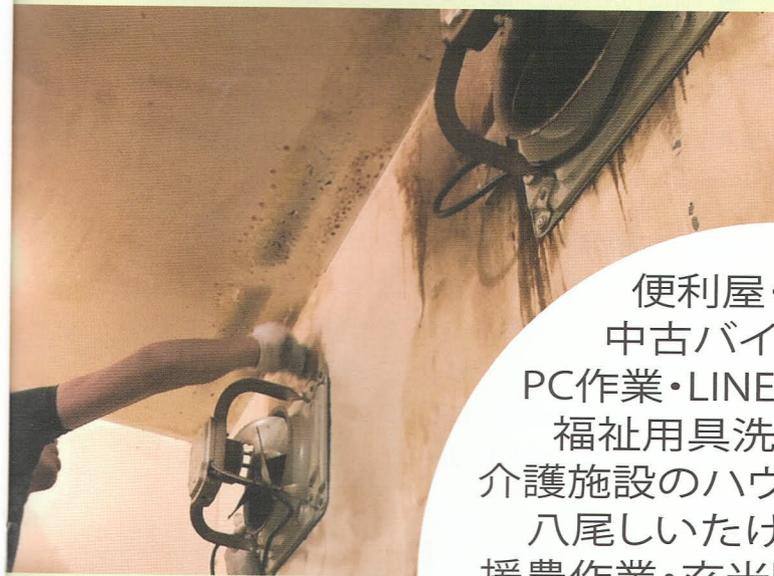


草むしりや網戸張替、換気扇洗浄
グリストラップの定期清掃など
LINEで簡単見積もりいたします



八尾しいたけ
プロジェクトも
配信中
インスタでチェックしてね

便利屋・軽作業
中古バイクの販売
PC作業・LINEスタンプ作成
福祉用具洗浄業毒作業
介護施設のハウスクリーニング
八尾しいたけプロジェクト
援農作業・玄米販売 などなど
色々な作業をする理由は
地域とつながり、人とつながり
自立の種をまいています
障害があってもなくても
働きやすい社会を
作るために



8050問題の解決策とその後

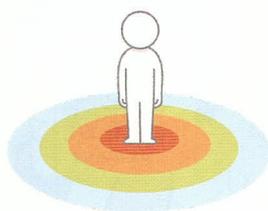
～統合失調症のDさんの場合

発表者 はばたき作業所 サービス管理責任者 高岡みえ

近年「8050問題」というキーワードが注目されています。その要因の1つに、精神疾患や障がいがあるとされています。

今回の事例の方は、8050問題が解決し、その後、家族がそれぞれのライフステージに別れて支援を受けていく過程で、バトンを受け取った事例を紹介したいと思います。

当事者 ● 就労A型 つながり方



1. 福祉事業所一覧
2. フォーマルなつながりからの紹介
3. インフォーマルなつながりからの紹介
4. インターネット
5. ハローワークなど求人
6. そのほか

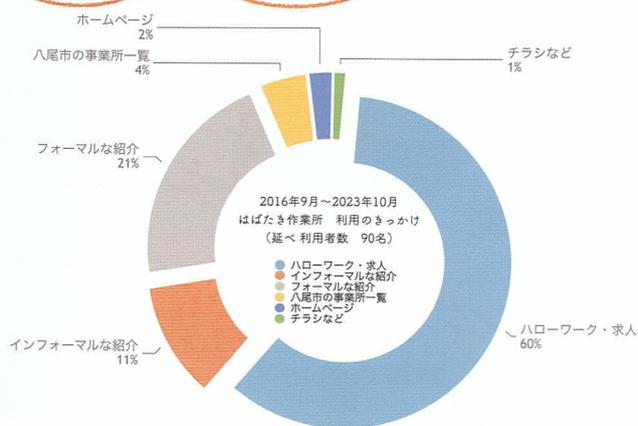
八尾市には障がい福祉課が
1年1回更新する一覧があります

フォーマルとは
公的機関・専門機関(福祉事業所や病院など)

インフォーマルとは
家族・友人・知人など

就労A型の特徴として、利用者と事業所は
福祉利用契約+雇用契約を結びます
そのため、障害者雇用として「求人」
することができます

当事者 ● 就労A型 つながり方



はばたき作業所を利用した方が、はばたき作業所に
どうやってつながったか、というのを表にしたものです。
平成24(2016)年9月の開所から令和5年8月まで
の約9年間のデータを元にしています。
延べ90名の方が利用されています。
(注:見学や問い合わせのみの方は含めていません。)

就労A型事業所を利用するまで ～はばたき作業所の場合～

1. 問い合わせ
2. 見学
3. 体験
4. 面接
5. 利用開始



「問い合わせる」という最初の一步が踏み出せたなら
百聞は一見にしかず。

まずは来て、見て、やってみて
「違うかった」と感じたなら
他の道を探す支援もしています。

Dさん 見学時の状況

1960年代生まれ	男性	八尾市外で母と二人暮らし
統合失調症	30代で症状悪化	長らく自宅療養
相談支援機関利用	居宅サービス利用	「自立」したい



2020年 夏 ▶ 母からの相談

- ・母「検査入院する間、病気の息子が心配」
- ・通院はしているが、福祉サービス利用なし
- ・20数年 引きこもり状態
- ・2階の掃除ができていない

2020年 秋 ▶ ヘルパー利用開始

- ・部屋の片付けと一緒に

2020年 冬 ▶ はばたき作業所見学



【Dさん 見学時の状況】

Dさんは、インターネットで調べて、はばたき作業所のホームページに辿り着き問い合わせしてくださいました。高齢の母親と二人暮らしの50代男性でした。統合失調症の診断があり治療継続中、一人暮らししながら働いていた時期もあったそうですが、30代で治療を中断したため症状が悪化し入院。退院後は働くことができず自宅に籠りがちになっていました。母親が高齢になったため、「自立」を目指して「働こう」と思って行動を起こしたそうです。相談支援機関を利用されているとのことで、Dさん了承の上、連絡させていただきました。

【Dさんを介した相談支援機関とのつながり】

相談支援機関に連絡したところ、Dさんが「自立」したい、と思った家庭状況の情報共有をしてくださいました。相談支援事業所が支援に入るきっかけは、「自分が検査入院するので、その間息子の世話ができない」とお母さんが相談されたことでした。

Dさんは最初は仕方なく相談支援員さんやヘルパーさんを受け入れたそうですが、部屋の掃除を一緒にしてもらったことで気持ちが変わり、高齢のお母さんのため、週1回の買い物を自分で行くようになったそうです。

その後、自立する目標ができ、「働く」ことへの強い思いもあり、お母さんが相談してから半年足らずで、就労A型の利用が開始となりました。

8050問題の解決とは

- ☑母からの相談でDさんが福祉サービスとつながった
- ☑Dさんは「親なきあと」を考え、行動にうつした



- ☑Dさんの支援の輪が広がった



□次のライフステージまで支援を継続する

【8050問題の解決とは】

Dさんの家族は「8050問題」の課題を抱えていました。

80代の母が、50代の息子の生活を支えるために、経済的にも精神的にも強い負担を請け負っていました。本来なら子どもが成長すると、親と子がそれぞれのライフステージへと進むのですが、親子一緒に長い間ステージに止まり続けた結果、いつの間にか社会的に取り残された状態になっていました。

今回のDさんは、お母さんの検査入院直前のギリギリのタイミングで、相談支援機関と繋がり、居宅サービスを受け入れ、社会との関わりを取り戻すことができました。

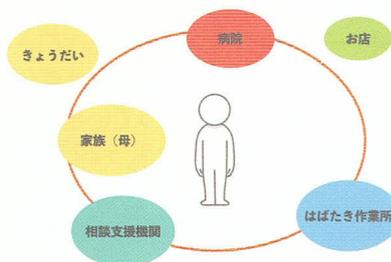
その後、はばたき作業所の利用開始と同じくして、Dさんは居宅サービスを一旦休止されました。

お母さんの負担を考えると、定期的な居宅サービスは必要だと思われましたが、Dさんの「ある程度部屋の片付けも終わったので必要ない」との自己決定を尊重した形となりました。

とはいえ、何かあればいつでも再開してくれる居宅サービス事業所とつながることができたことは大きな支えになったと言えます。

相談支援と就労継続支援、2つの事業所で支援を継続し、色々なアプローチをしながら、次のライフステージへの準備をDさん家族とすることで、8050問題の課題を一つの解決したと言えるのではないのでしょうか。

Dさんを中心につながる支援



【Dさんを中心につながる支援】

さて、はばたき作業所の利用を開始し、久しぶりに働くDさん。最初は椅子に座っていただけなかったり、指先をうまく使えなかったり、常にある幻聴に困っていたり、と、とてもしんどかったと思います。

でも、Dさんはしんどさと付き合いながら、週1回の買い物の日と、月1回の病院以外では休むことはありませんでした。「自立」に向けた、穏やかな日常が続いていました。Dさんなりに「親なきあと」のことも、色々考えておられました。

【8050問題の解決 その後～「親なきあと」の支援の中心は「親」】

2022年秋、夏頃から調子を崩していたお母さんがとうとう起き上がれなくなってしまいました。

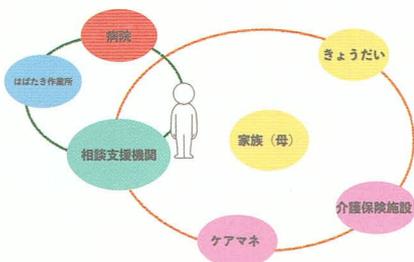
ここで一旦、Dさん家族への支援の中心は、お母さんになります。Dさんは以前から考えていたとおり、介護休職を決断されます。すぐにはばたき作業所から相談支援機関に連絡し、相談員さんがDさん自宅を訪問し、現状を把握。Dさんが復職するまでのフォローをしてくださいました。

はばたき作業所は休職されている間は、Dさん・相談員さんと連絡をとり、「復職を待つ」という、待ちの支援でした。

ほどなく、Dさんは、お母さんの希望で入所施設を探すことになりました。ケアマネさんや遠方の兄弟とも相談しながら、無事入所することができ、復職することができました。

8050問題の解決その後

～「親なき後」の支援の中心は「親」



【Dさんを中心につながる支援～「親なきあと」の支援】

Dさんは、以前から「親なきあと」のことを考えておられました。

- ・母親の介護はできるところまでする
- ・八尾に一人暮らしをしたい
- ・行政のサービスを使いたい

一人暮らしを希望されていましたが、きょうだいの心配もあり、グループホームへの入居を決断されました。

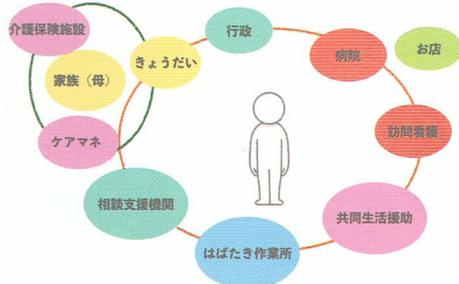
八尾への引っ越しの準備にあたっては、ご家族や行政機関との連絡や調整を相談支援機関が、Dさんと一緒にグループホームを探したり、入居が決まってからの引っ越しの支援などはばたき作業所が、と、役割分担をし、連携しました。

グループホーム入居後は、訪問看護の利用も開始し、医療との連携もしやすくなりました。

支援の輪がさらに広がり、次のライフステージへの準備しておられるようです。

Dさんを中心につながる支援

～「親なきあと」の支援



【次の支援者にバトンを渡す】

Dさんは、グループホームへの引っ越しが終わった後、仕事を辞めるつもりでした。

引っ越し後、初の担当者会議で、Dさんは思いを語ってくださいました。支援者の思いをDさんに聞いていただきました。

もちろん、金銭面での計算を一緒にしたり、色々話し合いました。

1ヶ月の休職後、「やっぱりもう少し働きます」と、決断され、無理なく働き続けるために、週3回勤務に変更して復職となりました。

以前と変わらず、病院以外は休まず出勤されています。

もうすぐ還暦です。次のライフステージは、おそらく定年退職でしょう。定年後のDさんの人生が、ご自身で望まれた通りになるよう、バトンを渡す準備が必要です。

そして、Dさんがつないでくださった、他の支援事業とのつながりに感謝し、また新たな支援ができるのではないかと期待しています。

福祉のバトンを渡すためにつながる

- ☑母からの相談でDさんが福祉サービスとつながった
- ☑Dさんは「親なきあと」を考え、行動にうつした



- ☑Dさんの支援の輪が広がった



- ☑次のライフステージまで支援を継続する



- 次の支援者にバトンを渡す

